

第2回「嘉田県政を検証する県民のつどい」記録

2014年4月26日（土）、午後2時から午後4時まで。

大津プリンスホテル 淡海にて、参加者 約300人

次第

- (1) 呼びかけ人代表、武村正義元知事からの会合趣旨
 - (2) 政策別 嘉田・三日月討論
 - (3) 嘉田からの「チームしが」提案
 - (4) 会場からの質疑応答
-

(1)「会合趣旨」

<武村>

嘉田県政を振り返った集いは1回で終わるつもりだったが、中途半端だという批評もあった。もう一回やれという声が出た。それで今日の第2回の運びになった。土曜の貴重な時間を割いてこんな多くの人が集まったのにお礼申し上げる。

40年前（昭和49年）の知事選を思い出している。まだ私は40歳になっていなかったが自民党推薦の強力な現職に立ち向かって立候補。当時八日市の市長をしていたが無名に近い私が立ち向かう決意をした。当時の県政に異常なものを感じていたからだ。この滋賀県は琵琶湖総合開発事業法という特別法を作って（昭和47年）開発始まったばかりだった。

滋賀が公共事業と開発でわき上がっていてそういう政策を進めたのが相手方の自民党の知事。経済優先公共事業大流行の中で利権めいた雰囲気伝わってきた。特定めた業者とつながって県政を疎かにしている。この選挙は負けても良いから立候補を決意した。

私のあと稲葉さん、国松さんが立候補いただいて知事として担当していただいた。そのあと現れたのが嘉田さん。嘉田さんの現れ方はまさに玉手箱のような驚きだった。はや8年の歳月流れて今日を迎えている。私が県政目指して40年の歳月が流れ4人の知事が県政の大事な責任お預かりいただいた。

この40年の共通点は県政の中核が汚職にまみれる事件は一つもなかったということだ。琵琶湖に対する思い、環境に対するアプローチは意欲的に取り組んでいただいた。腐敗防止と汚染防止と2つの点については必死に守ってきた原点だと思っている。以上であいさつは終わらせていただく。

嘉田由紀子さんと三日月大造さんに登場いただいたが、もっとも県政に関心の深い2人。今日はこのお二人に知事現職と衆議院議員の立場で丁々発止いただければありがたい。

<嘉田>

（琵琶湖年表を用いて過去40年の滋賀県、琵琶湖政策を説明：昭和49年以来の環境自治の仕組みを年表で説明）（資料添付のこと：ファイル添付）

まず私にとっての政治についてお話をしたい。埼玉県本庄市で生まれたが、父が市議会議員で毎日政治と行政の話が食卓の話題だった。父は、たとえば早稲田大学の誘致のため、夜討ち朝駆けで用地買収に走っていた。我が家の桑畑を転用して、当時目新しかった即席ラーメンの工場をつくって工場長として仕事をしていた。

当時の市議選で、私は小学校3年頃。今で言うと選挙違反だが私も選挙カーでマイクをにぎって応援をお願いしていた。中学校では生徒会副会長、熊谷女子校では生徒会長。自分にとって政治は身近で、社会組織を変えろという政治の動きは、日常生活の中にあった。

私自身、1969年に大学入学以降、アフリカやアメリカで環境と人びとのかかわりの研究、また琵琶湖については、水と人のかかわり研究をしてきたが、それは研究のための研究というよりは、研究をして社会をよくしたいと思ったからだ。1986年から琵琶湖研究所職員として琵琶湖研究に本格的にはいったが、何十冊本を書いても、何百遍論文書いても社会が変わらないので政治に出るしかないのかと思った。それが2006年の知事選挙だった。学問は社会を変えることができるが、それは政治を介することで、社会を変えることができることを8年で実感した。

<三日月>

こういう機会に感謝申し上げる。三日月という名前は本名で甲賀の方に源がある。昭和54年に大津に引っ越しをし、原体験は琵琶湖国体（昭和56年）。粉石けん運動は、母が有リン洗剤を使わず、「滋賀県は琵琶湖を思いやるんや」と言っていた。滋賀はえらいとこやなあと思った。日吉中学校は荒れていたが、生徒会長として「We Love 日吉」という運動をして、今も学校のスローガンで大切にしていることを誇りに思う。これが自分にとっての政治の原点だ。2003年に衆議院議員に初当選して10年。国政にいて県政を思い、県政にいて国政を思った。国政で培ったものを県政に役立てたいといつも思っていた。平成5年、米不足で外米が入ってきたときも故国量で近江米食べた。そのときにいつか恩返ししたいと思った。電車の運転資格をもっている国会議員は私だけ。生活の現場から政治がみられ語られる。遠い存在であってはならない。今は転換点。時代の転換点にある政治の中で滋賀の自治を守るのが大事。

(2) 政策別 嘉田・三日月討論

<経済問題・暮らし・雇用>

<嘉田>

経済政策は製造業などつくるどころ、と雇用を増やすこと、その両輪が必要です。人材育てとしては、非正規や失業している若い人を県として雇用して訓練して、人材を求める中小企業の職場とマッチングをしている。これあお「三方よし人づくり事業」と言ってい

る。雇用拡大の点では、女性の雇用率も滋賀県は低い。子育て中の母親への仕事斡旋の場として「マザーズジョブステーション」をつくった。好評なので、南部でほしいと言うことで8月に草津で2つめの窓口を作る。仕事を増やすことで確実に家計の懐を暖めいくことをしてきた。

企業の海外展開だと水環境ビジネスもサポートしてやっている。新しい付加価値作りも目の前に当たり前にあるものにプラスの付加価値をつけるように展開してきた。たとえば独自産業を、ココクールという形でブランド化してきた。雇用創出や滋賀県ならではの地場産業などを活かした経済振興、つまり滋賀県ならではの地域に根差した経済振興をビワコノミクスと名付けたい。三日月さんが共感いただけるようなら広めていきたい。

滋賀県の経済は決して悪くはない。県民所得は全国2位。家計所得は年によってかわるが5位前後。家庭貯蓄額は全国一位。経済的には潤っている。(武村：私の頃は工業出荷額が全国一位)。

<三日月>

ビワコノミクスという表現は良いと思う。上から目線の実態のないアベノミクスのような経済政策よりも、地域発の経済政策を進めていきたい。滋賀県は世界にも誇るべき地域。一方で地域の中では格差や劣化が進んでいる。国全体から滋賀でみると、例えば多くの方が車、京阪、バス、全国で免許返納は13万件と増えてきている。高齢者が、自分で運転できなくなったときに異動困難になる人が増えている。やはり交通こそ福祉につながる、町の元気につながる、交通の整備をこれからも津々浦々血流のような形で張り巡らしていくことを整備することで滋賀の地の利を作っていく。

水、これも重要な視点。シンガポールでPRしている技術はほとんど滋賀でつくっている。ならば滋賀でやろう。「ウォーターバレー構想」を是非嘉田知事とやろうとしてきたがまだ道半ば。そう言うのを進めることで水のありがたさを。水循環基本法を嘉田知事からも切望されて作った。

これまでは滋賀の雇用は製造物作り事業が担った。しかし非正規雇用に依存する方が多くて滋賀の雇用が戻っていない。そういう意味で観光業、文化芸術、介護、福祉、日々の生活で人生を豊かにするために第三次産業の振興が大事だ。嘉田知事も内需型企業誘致をずいぶん進めていただいた。

<福祉・教育>

<嘉田>

15歳以下の人口が沖縄に次いで2番目に多い。滋賀県は若い県、それゆえ南部の方は保育園や学童クラブなどが不足している。産婦人科医も全国で最も少ない。少しでも緩和したいと産婦人科医師を増やしてきた。保育園の入園も増やしたがまだまだ南部では不足している。いじめの問題は大変だった。県としても市町と協力しながら負担を減らしたい。

小中高の教員の給与は、五千億円の県予算の中で二千億円近くが人件費でそのうち6割以上が教員だ。8年かけてようやく35人学級がほぼ実現した。

体験学習も重視してきた。「うみのこ」30年たって老朽化したのでリニューアル計画を確定して、予算も確保して動き出した。「けがと弁当は自分持ち」という冒険遊び場も広めてきた。

県民の世論調査で一番求められているのが、「医療福祉介護」の分野で、若い人でも子育てといわない。人生90年の時代は在宅でなくなりたいという人が半分以上おられる。しかし実際は難しいと思っている。在宅看取りの仕組みは、多職種連携が必要。「良い人生だった」と阿弥陀さんにお迎えしてもらえそうな「滋賀モデル」を生み出しつつある。東近江の永源寺地区や、米原市の伊吹地区で進んでいる。

<三日月>

(家族のことを話し) 基本に据えるべきは人権。色んなところでそれぞれの人権が軽んじたり踏みにじられたり置いてきぼりになっている。健康寿命をできるだけ伸ばすのも重要。一つは「スポーツと文化」ということで、嘉田県政でやっていただいている。もう一つは口腔の健康と連携より力を入れてやっていくべきではないか。病気はがん対策。認知症の見守り対策も充実していくべきではないか。少人数学級は進めていただいた。政権交代で逆の方向に移りつつあるがそういう方向に進めるために頑張っていきたい。

<琵琶湖政策>

<嘉田>

琵琶湖は良くなっているところもあるしまだまだ改善されていないところもある。環境が今苦しんでいる背景には歴史的に3つの受難がある。ひとつは戦中から始まった食糧不足解消のための内湖干拓。内湖干拓の結果として、在来魚のゆりかご(産卵場)が無くなるという問題がでてきて、今に尾をひいている。ふたつめの受難が、琵琶湖のダム化をねらった琵琶湖総合開発。干拓、琵琶湖総合開発の影響は今も大変大きい。三つめが外来の魚介類や水生生物。

そこで内湖の再生をはじめた。長浜市で最初80ヘクタールを計画したが、20ヘクタールで進めている。だいぶ在来魚も増えている。少しずつ改善している。在来魚やセタシジミを復活すると水がきれいになる。ただいったん壊した物を回復するのは大変難しいということもわかった。人が湖に関心をもって、人との関わりを再生しないと琵琶湖への再生が高まらない。過去8年力を入れてきた。また最近もっとも悩んでいるのが外来生物水生植物で、特にオオバナミズキンバイの繁殖力は強く、大変苦勞をしている。

<三日月>

守山でオオバナミズキンバイの刈り取りなど清掃活動している。そこでいわれるのは色

んな技術の普及で水質データは良くなったが原因不明のぬめりが増え、薬の影響か分からないが水質の変化はきびしく、諦めにも似た叫びがある。声なき声を良く聞く必要がある。嘉田知事おっしゃったが、マザーレイク21をこれからも進め、私たちの生活の中で琵琶湖と関わる事が大切。内湖の再生も重要じゃないか。(武村：内湖の復元は本当にがんばってほしい。100年間琵琶湖をつぶしてきた。水面を減らしてきた。)

<原発と流域治水>

<嘉田>

災害対策では、ハードも大事だが、「ハードウェア」にプラスして「ソフトウェア」が大事だ。特にリスクを正しく知り正しく知らせていく。まずは自分の命は自分で守らないといけない。水害であるなら、「流す」「ためる」「とどめる」「そなえる」という四重の防護を工夫した流域治水条例をつくってきた。滋賀県全体で最悪の雨が降ったらどうなるかというリスク(地先の安全度マップ)を公表し、条例を作った。フランスやイギリス、アメリカ、では当然できている仕組みだ。このあたりは三日月さんも思いが近いと思う。

<武村> 東京で脱原発をおっしゃっているのであれば、滋賀県知事が無くしたいという方が迫力あるが。

<三日月>

その通りと思う。3・11のとき国会にいてもものすごい揺れだった。原発はテレビで見た。これで住めなくなるのではないかという不安をもった。昨年18号台風の災害が滋賀を襲った。私たちは自然の中で生きている。この数年から学ぶのは「想定外を想定する」こと。生きるために備える。流域治水は画期的と思う。水を川に閉じこめない。ダムに頼らない。「地先の安全度マップ」づくりは大変画期的で、滋賀県流域治水条例の今日的意義、その成果をまわりの地域にも行かせないか。国の立法にも生かしていけないか、工夫したい。残念ながら民主政権はダムの見直しを全てはできなかった。治水条例の意味を持ちながら考えていきたい。

原発については、関電始め審査や調査していただいたが、できるだけ早く原発に依存しない仕組みを作っていく。原発をできるだけ早くなくしていくのが大切だし、使命だと思う。広域避難計画というのがある。バスを使う。広域避難、だれが運転してくれますか？道路通れますか？というのも含めて嘉田知事に検討していただいているが、避難経路のことも国に行っていきたい。

スマートでかっこいい節電を滋賀からやってみない？スマートな省エネ社会と一緒に取り組んでいきたい。

<行財政改革・県政>

<嘉田>

必要性の低い公共事業、もったいない、と見直した。結果的には借金を 900 億円ほど減らせた。プライマリーバランスも黒字化した。財政改善し、同時に教育文化福祉に予算を注いだ。また、予算編成の過程は意外とみえない。縦割りを排して横串政策を前向きに進めることで、行革をしながら、政策効果をだしてきた。武村さんにも自治とっていただいていたが、私は、「できるかできないか」ではなく「やるかやらないか」という意志を示して職員がやる気をだすよう持ちかけてきた。「知恵だし汗かきプロジェクト」など。たとえば新幹線新駅の中止にあたっては、土地区画整備事業では中止、やめると言う条項はないという。そこで、都市計画の担当職員は、「50ヘクタールからゼロヘクタールに変更」という変更条項を使ったらいいと提案してくれた。流域治水で職員が培った技術は土木学会賞ももらった。広域連合でも、他府県の職員といわば他流試合をしながら、いい仕事をしている。

<三日月>

そこは私は評価し共感する。財政改革は評価したい。と同時に予算の見える化もすすめてもらった。予算編成過程の見えるかは大事。ずいぶん関心高まり、行政改革も進んでいる。今国会に21年度の決算がまだ未承認のまま残っている。従って国で決算も使わず予算をできるだけ財源を地域、地方にまわしたい。あと2点ある。事務所だけでなく、全体がそうだが、色んな目とりわけ女性の目を行政改革に反映していくのが良いと感じた。国交省では女性管理職がいなかった。そういう目も入っていく行政にしたい。民主は官僚機構うまく使えなかった。嘉田知事が進めてきた改革も学びながらより多くの方の共感をみて勤めていきたい。是非身の回りの整理整頓から行財政改革をしたい。

<武村> 県政のテーマは多種多様。まだできていないことも山ほどある。そういうのが県政だし、地方自治だ。では会場から意見があったらお願いします。

(3) 嘉田からの「チームしが」の提案

<会場>三日月さんは、国会での原発輸出に賛成をした。その意図は？

<三日月>

原発輸出については忸怩たる思いで賛成した。核の平和利用、不拡散は進めるべきだが、原発輸出は進めるべきではない。党の決定であった。個人的には忸怩たる思い。離党すべきという判断もあったが、そのときは忸怩たる思い。「2030年ゼロ」というのが党の方針だが、私は一つの合理的なラインだとは思いますが、福島の実現をみるにつけ、できるだけ早く原発に頼らない社会を作る声に答えるべきと思う。

<武村>

私も類似の経験がある。三日月さんも原発輸出は困られたと思う。その上で党の方針に従ったと思うが、民主党に所属していた三日月さんがそうで、批判されるのは分かるが、これからはそうでもない。嘉田さん、三日月さん、二人の政策はあまり違わないと私は感じた。文章で書かれている三日月さんの表現をこれからは卒原発でいこうというのはできる限り早くというので、財政再建や経済問題にしろ、嘉田さんがやってこられた県政と大きな矛盾はないと感じた。嘉田さん辞めないでという声も上がっているが、ここで嘉田さん、三日月さんにこれからは問いかけたい。2度「県民の集い」を開いた立場だが、これからはどうするか。共通して行動をとられる可能性はあるのか。うかがいたい。

<嘉田>

私は三日月さんの母親くらいの年齢です。今、立候補の予定をしている国の霞が関からの人に危機感を感じている。国の省庁は縦割りで、出身分野は深くご存じだろうが、自治体は全てをやらないといけない。もしその方が知事になったら、という危機感を覚えている。特にこの方は原発推進の省庁ご出身で、原発反対の嘉田はけしからん、という思いで、知事選挙に手をあげた、と言っていた。

4月12日に古賀茂明さんをお呼びした。「滋賀県を原子力村の奴隷にしてはいけない、嘉田さん頑張れ」という応援をいただいた（拍手）。そしてこの原子力村の奴隷にしてはいけないという思いは三日月さんも一緒だと思う。滋賀県の自治のDNAをどうバトンを渡すか考えていかないといけない。

ただ、県民の思いはそれぞれ多様。政党に属する人、無党派の人と多様です。今、国の政治は野党が弱くて、「一強多弱」。そういうところで、自治体で新しい政治モデルをつくれぬか。多様な意思は残して、活かす。よく「小異を捨てて大同につく」という言い方をしますが、私は「小異は活かして大同につきましょう」と言いたい。そういう新しい政治モデルはいかがでしょうか。滋賀の自治を守り滋賀らしい政治グループ。

その際に、野球型の組織とサッカー型の組織がある。野球型は、持ち場が決まっていて、固定的。許認可などの役割には適切だ。しかし、企画プランニングやサービスの仕事では、ひとり一人が多様な役割ができるサッカー型組織が有効と思う。そこで、サッカー型のチームを、政治グループとして提案できないかと思う。たとえば名前は「チーム滋賀」！

<三日月>

自治の中で滋賀の中で対抗しうる。より多くの方が違いはあるけれどもそれぞれの個性の中で活動していく。いいと思います。

<嘉田>

武村さんの最初の話にありましたように、二度と滋賀県政を腐敗させてはいけない。チーム滋賀の魂だと思って、武村さんの提案をうかがった。「チーム滋賀」を作らせていただくために2週間ほどお時間をいただきたい。連休明け、具体的には5月7日に「チーム滋賀」の提案と、私自身の出处進退の決意を表明させていただきたい。

<武村>

(前半分くらいは拍手せず) それまでに、これからの県政に対する新しい取り組み、組織に対する提案について、三日月さんと詰めて2人が中心になって改めて発表したい。これをご覧いただいて意見があれば発信していただきたい。嘉田さんの出处進退も明らかにさせていただく。ということで「チーム滋賀」の前向きの取り組みと共に、今後の方向をきめていきたい。

勝手連を作って今いろいろお聞きして現職がもつ至らなさもみえてきた。挑戦するものの若さもある。私は「チームしが」を作るのであれば、嘉田さんはもう一期知事をして三日月さんが支える、三日月さんやっぱり国会議員として仕事をする、ということもある。

嘉田さんは8年前は教授だった。それにも関わらず半分以上の県民の支持を得た。私のときも自民党一色の滋賀県。そういう中でたまたま私がかじ取りをしてきた。今、三日月さんがこのままいくと、自民党対民主党という、その一点で判断されると思う。そういう意味では、勝手連という仕組みは有効ではないか、と思う。

<嘉田>

8年間、知事をやらせていただいて、知事として二つの資質が必要と感じた。一つは県民の幸せ作りは「政局ではなく政策」ということ。三日月さんの政策集は見事だなと思う。二つ目は知事の仕事は三千人の県庁力の最大化が必要。職員がついてくるように、「政党よりは人物本位」ということ。私も全身全霊傾けてきた。本当に毎日気が抜けない。大変な気力体力が必要な仕事である。政策、人物で塾考して5月7日までに意見集約して公表したい。皆さんが選挙に関心を持ち続けていただくことをお願いしたい。

<三日月>

こういう場をいただいて感謝している。国政を志した私の責任はきわめて重い。しかし嘉田さんが作ったものは全否定されてはならない。やはり次の4年だけじゃなくて5年10年。滋賀にすんで働いて良かった、という県政にしないといけない。

(了)